

## 5年生「スーパーグローバル」IDEC 連携プログラム

### 第5回実施報告

日 時：2017年2月18日（土）13:00-16:00

場 所：広島大学附属福山中・高等学校内 マルチメディアホール

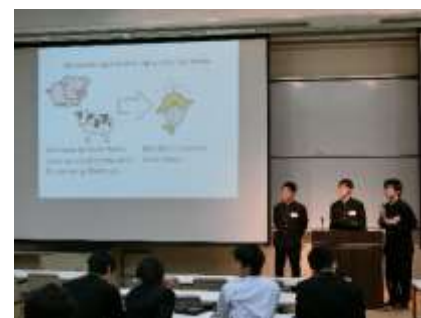
参加者：生徒23名、留学生12名、大学教員2名、教員5名

#### 実施内容

第5回 IDEC 連携プログラムは、一年間のまとめの会として、小グループによるテーマ別発表と意見交流を実施しました。生徒たちは、「社会福祉」「ジェンダー」「多文化」「捕鯨」「日本人の気質」という5つのグループに分かれて、これまでの議論を振り返って考えたこと、学んだことについて全員が自分の意見を述べました。1つのグループの持ち時間を10分間とし、5分間で質疑応答を行いました。留学生の質問の中で印象的だったのは、体格差を例に出して公正と平等の具体的な違いを生徒に投げかけて議論したことです。IDECの清水教授が『自分が高校生だった時は、みなさんのように英語でうまく話すことはできませんでした。みなさんが英語で自分の考えを述べていることは素晴らしいです。高校生の段階でこれだけの議論ができれば、将来楽しみです。』と生徒の頑張りを後押ししてくださり、励みになるご講評をしてくださいました。今年度 IDEC 連携プログラムは5回実施してきました。生徒たちは回を重ねることで、自分の意見をしっかりと伝えようとする姿がより強く見えるようになりました。

#### 【参加者の声】

- 英語は難しいものはもちろんだったけど、議論は大変だった。自分の考えや日本の状況を全然理解していなかったの、留学生の意見や彼らの母国と自分たちのものを比べることができずに意見をなかなか出せないでいたと思う。今回のプレゼンのテーマにしてもそうだけど、まず自分や自分のことを理解しないと始まらないことに改めて気づかされた。また、「熟達した英語学習者」である留学生たちの英語は、普段なかなか聞くことができないもので、とても充実していた。
- 英語で話せるかどうかということよりも問題に対して積極的に考え、何とか自分の考えを持つということの方が大事だと思った、物事をいろんな角度から捉えることが必要で、そのためには相手の主張も理解することや基礎的知識が大切。そういう意味でグローバルな話題には常に関心を向けておくべきだと思った。そうすれば、自分のいいたいことははっきりして、より充実したものになると思う。最後の自由に話す時間で、「相手をリスペクトする」というのが出て、本当にそれが一番大事だと思うから、意識したい。
- まず、議論・意見表明の段階においてはそのモチベーションが大事だったが、そこは十分あって積極的に参加できたと思う。あとは英語の単語力や表現力の向上が必要だった。プレゼンに関しては、第



1回はどうしても **Opposite** な方の意見に関する考察が不足しがちであったが、第2回では十分な配慮ができ、**Critical Thinking** となっていたと思う。その中で、**Face to Face of Mutual Understanding** の為の **Active Conversation** が重要だという事、そしてその基盤として論理的な構成、**Scientific Paper** に基づく **data** など説明力と実用性の根拠を示すことの大切さを理解でき有意義だった。



○今年一年参加してきて、何を伝えたいかポイントをはっきりさせることが大事だと感じた。コミュニケーションのスキルを第一に考えてしまいがちだったが、内容のあるものを作りたいと思うようになった。そして、建設的な議論のためには反論を含めて考えないといけないと分かった。また、説得力や深みのある内容にするには学校で習ったことだけではなく、自ら専門書などを読んでいって考えを深めることが大切だと思った。今日からでも行動に移そうと思う。



○一番つらかったのはやはり言葉でした。英語で伝えるのは想像以上にハードで頭と耳を同時に働かさなければならず、つらかったです。言いたいことを日本語なら何でも説明できるのに、英語だと全く出てこなくてつらかったです。あとは、トピックがトピックだっただけになかなか意見も出ず、話も進まずそれもつらかったです。発言力をつけると言っている自分が全く話せるようになっていないこともつらかったです。こういっているとつらいことばかりと思われてしまいますが、楽しいこともそれ以上に山ほどありました。外国人とこんなに自由に話せる機会は滅多にあることではないので貴重な体験になりました。

○英語能力の不足はもちろん感じたけれども、それ以上に文化の違いを深く考えさせられた。「人前で話すことが不得意」というテーマに関しても、日本人はそうであるが、外国人の場合はそうじゃないことが多いなど、育ってきた環境が異なれば感じる、考えることは違うんだという事を再認識できた。グローバル化が進む今日において、多文化交流を経験していくことは避けられないので、そういった文化の違いを尊重しつつ、かつ有意義な意見交換ができるようになりたいと強く思った。

○はじめは日本中心の意見で考えていたけれど、留学生と話をすることで知らず知らずのうちに日本中心で考えていたことに気付くことが出来て、そこから違う国のことも表面上だけでなく取り入れることが出来るようになったと思う。自分で話しながらわからなくなることもあったので、もっと考える必要があると思った。

○最初は自分の意見と同じ側からしか考えられなかった。しかし、反対の意見から考えることも教わり、留学生と話すことで一方的にしか考えられなかったのが多方面から考えることができ、自分の主張には何が足りてないのか気付くことができた。また、最初は相手の言いたいことが分からなくても、コミュニケーションを続けることで話しやすくなり、わからないことも理解できるようになった。コミュニケーションは続けないとお互いの意見は理解できないと感じ、コミュニケーションはすごく大事だと思った。

